Seishin Campus 230

おもな記事

・学長就任挨拶
・新任教員挨拶
・前学長退任挨拶
・退職教員挨拶
・第73回卒業式
・2023年度入学式
・2022年度 学長賞
・2022年度 マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞
・創立75周年記念事業について
・研究室探訪
・TOPICS
・4号館／聖心グローバルプラザのご案内　など

2023年（令和5年）6月23日発行

発行：聖心女子大学 〒150-8938　東京都渋谷区広尾4-3-1　TEL 03-3407-5811(代表)　編集 聖心女子大学 企画部

無断転載・複製を禁じます

学長就任挨拶

安達 まみ
ADACHI Mami

聖心スピリットを燃やして！
世界に開かれた知
一生を支える学びが始まります。

2023 年、新型コロナウイルス感染症については、マスク着用が個人判断となり、5 月8 日からは5 類の感染症へと移行します。わたしたちのコロナとの生活は新しい局面に入りました。

国際的なルーツをもつ聖心女子大学は1948 年、新入生62 名を迎えて日本最初の新制女子大学の一つとして開学しました。以来、本学はつねに「真の教養人」を育てる「リベラル・アーツ教育」に力を注ぎ、奥深い専門性と広い視野の両立を掲げてきました。このたび、ますます複雑化する現代を生きる力をつけるために、AI・データサイエンスの科目の必修化、および 7 分野からなる「聖心リベラル・アーツ群」の科目を設置しました。縦軸となる専門的な学問探求と横軸となるゆたかな教養が織りなす、世界に開かれた学びを通して、一人ひとりが「時代を超えるゆるぎない知」と「時代に働きかける知」を養い〈個の力〉を培います。

授業においても学生生活においても、リーダーシップを発揮する環境が整っているのも、少人数教育を基本とする女子大学ならではです。本学から巣立った先輩たちは、さまざまな人生の歩みの中で社会に貢献しています。彼女たちは、本学で培った聖心スピリットに支えられています。聖心スピリットとは「まわりの人が必要としているものに気づき、頭を使い、心を使い、手足を使ってよりよい状態をつくりだす」精神のありようです。

本年、聖心女子大学は創立75 周年を迎えました。わたしたちは世界を視野に、地域との絆も大切に、次世代のために緑を守り育て、みなさまを待っています。四季折々の花が咲く広尾のキャンパスにて。

■プロフィール

（学位）1982年3月文学修士（東京大学）
2016年7月 Ph.D. （Shakespeare Institute）

（学歴）1979年3月聖心女子大学文学部外国語外国文学科卒業
1982年3月東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専攻修士課程修了
1988年3月東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専攻博士課程満期退学
2016年7月英国バーミンガム大学シェイクスピア・インスティテュート博士課程修了

新任教員紹介

心理学科

専門分野

臨床心理学、
子どもの心理臨床、
がん医療における
心理支援

小林 真理子 教授
KOBAYASHI Mariko

4月に心理学科に着任いたしました。私はこれまで、子どもと家族を対象に病院や学校・地域で心理臨床を積み重ねてきました。子どもの心理療法、地域での子育て支援、がん医療におけるコミュニケーション、学校でのがん教育など、子どもと家族をめぐるテーマに関心を持っています。個人の体験や日常の身近な課題への関心から研究のテーマが導かれることも多いです。自らの体験を大事にしながら、同時に中立的・客観的な視点をもち、その間を往復しながら学びを深めていくことはとても実りあることと思います。皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

おすすめの書籍

河合隼雄著『子どもの宇宙』
（岩波新書）1987年

心理学科

専門分野

臨床心理学、発達
心理学、家族心理学

平井 美佳 教授
HIRAI Mika

心理学科に着任いたしました。研究テーマは、人々が自律性と関係性のバランスをいかに取るのかについて、「自己と他者の調整」という観点から検討してきました。これは本学の「3つのBe」のBe independentとBe cooperativeに関わります。私は初等科から大学院まで聖心で育ちました。まさか中年期になって母校で新たなスタートを切るとは想像していませんでした。着任にあたり、この「3つのBe」を見て、かつて担任のシスターがよくおっしゃっておられた「それは神様のお導きよ」という言葉が頭に浮かびました。微力ながら研究と教育に精進して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

おすすめの書籍

柚木麻子著『オール・ノット』
（講談社）2023年

心理学科

専門分野

認知科学・
教育心理学

石黒 千晶 専任講師
ISHIGUROI Chiaki

4月から心理学科に着任しました石黒千晶です。これまでヒトが創造性をどのように発揮するのかを検討し、創造性を育む取り組みとしてアートワークショップなどの教育実践の開発と効果測定に取り組んできました。創造性は現代人に必要な能力として、学校や企業など幅広い場面で教育・研修の対象とされてきました。しかし、創造性がどのように発達するか、どのように育めばいいかについては十分に知られていません。誰もが自分の個性を発揮して、創造的な人生を生きるためにはどうすればいいでしょうか。皆さんと一緒に研究できたら嬉しいです。

おすすめの書籍

中小路 久美代、 新藤 浩伸、 山本 恭裕、
岡田 猛　編著『触発するミュージアム
―文化的公共空間の新たな可能性を求
めて』（あいり出版）2016年

教育学科

専門分野

子育て支援
保育学　保育者論

牧野 順子 助教
MAKINO Junko

教育学科に着任しました牧野順子です。「子育て支援」「保育者論」「保育実習」の授業を担当し保育士養成課程にかかわります。2019年度に大学内に開室された「子育て支援室マーガレットルーム」のスタッフとして4年間かかわってきました。今後は運営も引き継いでいきます。保育の現場経験も長いので、実践につながる知識を伝えていきます。様々な人とのかかわりが互いに恵みをもたらす「互恵」の精神を大切にし、対話的な学びを共にしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

おすすめの書籍

『わかりあえないことから
―コミュニケーション能力とは何か』
（講談社現代新書）2012年

教育学科

専門分野

生活科教育・
家庭科教育

宮下 理恵子 助教
MIYASHITA Rieko

4月から教育学科に着任いたしました。主に「家庭科教育」と「生活科教育」を専門として担当させていただいています。私はこの大学を卒業してすぐに、小学校の担任教諭として勤務しました。高学年で学習する家庭科教育に触れたのは子どもを育てながら非常勤講師として家庭科を担当した時からです。そこで家庭科教育の奥深さ、教えることの難しさを体感し、そして何より家庭科教育が人間生活にとってとても重要であることを再認識しました。家庭科も生活科も人間の営みの根源となるものです。教員を目指す皆さんと共に、子ども達との学びについて考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

おすすめの書籍

福岡伸一著『新版　動的平衡』
シリーズ１、２、３
（小学館新書）2017、2018、2022年

グローバル共生研究所

専門分野

教育学、持続可能な
開発のための教育
（ESD）、国際理解
教育、気候変動教育

神田 和可子 助教
KANDA Wakako

４月からグローバル共生研究所に着任しました。母校でこのようなご縁に恵まれたことに感謝の気持ちと身が引き締まる思いでおります。私は聖心女子大学を卒業後、社会人経験を経てJICAの日系社会青年海外協力隊で日本語学校教師としてブラジルで活動しました。ブラジルでは教育によって人生の選択肢が拡がり、豊かな社会が創られる体験をし、その体験がきっかけで大学院へ進学しました。博士前期課程および後期課程では、持続可能な開発のための教育（ESD）を専門に研究して参りました。研究を通して教育や学びの奥深さに魅了されています！皆さんと共にこれからの教育や学びのあり方について探究したいと思っております。よろしくお願いいたします。

おすすめの書籍

日本ホリスティック教育協会 永田佳之・
吉田敦彦編『持続可能な教育と文化―深化する環太平洋のESD』（せせらぎ出版）2008年

退任の辞

髙祖敏明 前学長
KOSO Toshiaki

コロナ禍の中の思い出と感謝

春は旅立ちの時。任期満了により3月末日をもって私も学長を卒業します。この4年間、曲がりなりにも任期いっぱい務めさせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

とりわけ地盤も人脈もなかった「落下傘学長」を温かく迎えていただいた経験、また、就任1年後から3年も続いたコロナ・パンデミックのさなか、学生の成長と満足度の向上を軸に据えて、教職員の皆様と一緒に「新しい日常」を模索し続けた経験は、何物にも代えがたいものとなっております。

2019年2月中旬に設置したCOVID-19対策本部会議は、毎週1度会議を開き、基本方針はもとより、様々な分野の対応についても、意見交換を重ねながら方針を定めて行きました。ここでの教職協働の営みは、皆様の心に根付く母校愛と「聖心スピリット」を体感する場でもありました。

そうした教職協働の成果の一つが、文部科学省も「好ましい事例」として注目した本学の「コロナ禍の中でひとりも取り残さない、学生に寄り添う授業」への取り組みです。

一方、2019年に皆で策定した「中期目標・中期計画（2020-24年）」は、現代教養学部の実質化をはじめ、大学の教育研究と運営全体の発展を実地に進める基盤となり、同時に、それらを自己点検・評価する基準ともなり、それがシステムとして機能する仕組みも整いました。そのお蔭で、コロナ禍の中でも軸が大きくはブレないで対応できたように思います。

学生会役員会の活動、学生たちの課外活動・ボランティア活動を集約して得た「渋谷サステナブル・アワード2022」の優秀賞受賞も、忘れ難い思い出です。

18歳人口の急減、共学志向の高まり、理系人材の強調などの現況は、本学の存在意義やリベラルアーツ教育への挑戦となるのでしょうが、新学長のもと、皆様が協力し合って「新しい日常」を築いていかれるものと信じております。

最後に、聖心女子大学の行く手と皆様のご活躍を、神様が見守り導いてくださいますようお祈り申しあげます。

ご退職の先生

心理学科

井上 智義 教授
INOUE Tomoyoshi

3年前の4月に、本学に着任するとほぼ同時に緊急事態宣言が発出され、私にとっては、初めてのオンライン授業とマスク生活が始まりました。心理学科の先生方以外とは、入試業務でしか直接お会いする機会がありませんでした。そのような機会のみが、教職員の方々とお会いする貴重な時間となり、その際に個別にお話しできたことが、私にとっては忘れがたい体験でした。この場をお借りしてお礼を申し上げます。もちろん、身近に接したゼミ生や、熱心に受講してくれた学生も印象に残っています。人生の最後の時期に有意義な時間と空間を与えていただきましたことに、心から感謝申し上げます。

心理学科

高橋 雅延 教授
TAKAHASHI Masanobu

縁があって京都から聖心に呼んでいただき29年の歳月が流れました。月並みな言い方ですが、終わってしまえば、あっという間でした。聖心で教壇に立った初日、学生全員が起立して礼をすることや、大教室では最前列から埋まっていくことに驚かされたのも昨日のことのようです。聖心のよいところは私たち教員と学生の間に副手さんがいることだと思います。副手さんのおかげで授業に全力を尽くせただけではなく、記憶心理学という超マイナーな分野の私が研究にも専念できました。

こうして職を辞する年に『家族関係の闇が引き起こす「抑うつ」と、その解放』（英智舎）を書き残していけたことは、聖心の皆さまへのせめてもの恩返しなのかもしれません。

ご退職の先生

心理学科

中野 博子 教授
NAKANO Hiroko

3年間の短い間でしたが、大変お世話になりました。私は15～27歳の時期たまたま広尾に家族と住んでいたので、聖心は以前よりとても身近な存在でした。教員となって学生と直接会う機会を得たことで、真剣に考え、意欲的で活発、困った人にさりげなく手を差し伸べる多くの学生と出会い、助けられ、外からではわからなかった聖心ならではの魅力をさらに感じるようになりました。

一方で宝石の原石のように、強みを認識することできらきら輝きだす学生にも出会えました。多くの学生がここでよかったと卒業していける大学として今後もさらに発展していかれることを心より願っております。COVID-19 の感染拡大と重なってしまったため、先生方、職員の皆様、学生の皆様と交流する機会が持ちにくかったことが心残りですが、どこかでお目にかかれる機会にはこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

教育学科

矢尾 千比呂 助教
YAO Chihiro

聖心女子大学に保育士養成課程が設置された翌年2019年4月に着任し、4年間保育士養成課程の授業や保育実習、「子育て支援室マーガレットルーム」の運営等を担当いたしました。聖心女子大学、大学院に在学中、ご指導頂いた先生方の元で勤務できること、また第二の人生の出発点ともいえる聖心に戻って来られたことが嬉しく、夢のよう毎日でした。特に、学生方やマーガレットルームに熱心に通って下さった卒業生、近隣にお住いの親子の皆さまとの交流は本当に楽しい思い出となっております。コロナ禍には戸惑うこともございましたが、多くの方に助けて頂きました。いつも温かく支えて下さった先生方、職員の皆さまに心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

3月11日（土）に、2022年度学部卒業式と大学院学位記授与式が、麗らかな春の陽ざしのもとで実施されました。学部卒業式は３年ぶりにマリアンホールに全卒業生が集い、中継でご家族が見守る中、各学科の代表学生による学位記の授与式、マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞授与式、感謝の祈り・トーチライトプロセッションが執り行われました。
卒業生、修了生の皆さん、おめでとうございました。これからの益々のご活躍をお祈りいたします。

2023年3月11日(土)

第73回卒業式

学長式辞のなかで髙祖前学長は、コロナの感染状況が徐々に収まってきていることに触れ、コロナ後の世界が、さまざまな課題を抱えているいま、聖心女子大学で学んだ、聖心スピリットを発揮して社会のなかで活躍することへの期待を述べられました。

また、今年度が創立75周年にあたるため、来る11月4日の記念式典では、卒業生の皆さんが再びキャンパスに戻ってこられるよう呼びかけました。

祝辞は、慶應義塾大学塾長の伊藤公平氏よりいただきました。

祝辞　慶應義塾塾長
伊藤公平 氏

トーチライトプロセッション

2023年度 入学式

4月8日、2023年度の聖心女子大学現代教養学部入学式がマリアンホールにて挙行されました。

真新しい制服に身を包んだ新入生599名と新編入学生12名が、聖心生としての第一歩を踏み出しました。 式典では、安達学長による式辞、新入生代表者による挨拶に加え、4年ぶりにグリークラブによる「信仰」（ロッシーニ作曲）と校歌の合唱が行われ、新入生を華やかに歓迎しました。式典の後にはご家族で記念撮影をされる姿が数多く見られました。

また、学部入学式に先立ち4月1日には、2023年度聖心女子大学大学院入学式が宮代ホールで執り行われました。

桜の花びらが舞う暖かな日差しのもと、人文社会科学研究科に入学した33名の大学院生が学びの決意を新たにしました。

1年次生に聞きました。

入学してよかった点はどこですか？

・ジェネラルレクチャーの講義が設けられているので、学力的にではなく人間的にも成長する機会を与えられているように感じます。
・都心でありながら、緑が多く落ち着いた街に毎日通学できることや、教職員の方々がとても親切なこと。
・英語の授業が、少人数制で毎日1人2回ほど発表の機会があるので、英語力も身につき、人前で話すことが苦手ではなくなりました。

大学生として楽しんでいることを教えてください。

・ボランティア活動です。
・1年次生は様々な分野の授業を受けられることです。いま、教育や史学、脳科学などの授業を履修しています。2年次で学科選択という特徴を生かして興味のあることを分野を問わず学べることがとても楽しいです。
・学食です！
・毎日新たな発見があり、とても充実していますが、特に楽しいのは友人関係です。全て一緒の授業を履修するわけではないので、これまでとは異なる距離感での友人付き合いは新鮮で楽しいです。

祝辞　聖心女子大学協力会
会長　諸戸精孝 氏

2022年度 聖心女子大学学長賞

「渋谷サステナブル・アワード2022」
受賞式にて

2022年度聖心女子大学学長賞表彰式が、2023年3月7日(火)と4月8日(土)の両日執り行われました。聖心女子大学学長賞とは、学生または学生団体で顕著な功績のあった活動に対し褒賞する制度です。

受賞したのは、ムーミンバレーパークとの産学連携で、2年にわたりパークの企画・立案・作成に携わった英語文化コミュニケーション学科の「翻訳を通した企業協力」「翻訳理論と実践I-1」を履修する学生の皆さんと、「渋谷サステナブル・アワード2022」で教育機関としてはじめて優秀賞を受賞した宮代サステイナブルキャンパスプロジェクトメンバー、個人では日本語日本文学科3年生の内田志保子さんです。 受賞者の皆さま、おめでとうございます。

2022年度　聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞

建学の精神は、一人ひとりの学生の生活の中で生きられてこそ、目的を達成するものです。

聖心女子大学マグダレナ・ソフィア・バラ記念学長賞は、建学の精神をよく体現し、模範となる学生生活を送ったと認められる学生に、学長より送られる賞であり、令和4年度卒業式において学長より賞状および副賞が授与されました。

聖マグダレナ・ソフィア・バラ

2022（令和4）年度の受賞者は、次の３名です。

英語文化コミュニケーション学科
中尾　咲貴子 さん

本学で培った柔軟な思考力を基盤に

この度は名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。
この4年間、何事にも好奇心をもって、深く取り組んで参りました。
英文科での学びや教職課程では、多角的な視点で物事を探究したことで、心から学ぶ楽しさ、そして喜びを知りました。
また、聖心祭実行委員会での活動や寮生活では制限のある中でも仲間と助け合い、協働することの大切さを学びました。

前代未聞の状況下に変容を余儀なくされた学生生活だったからこそ、人の温もり、そして恵まれた環境に感謝し学びを修めることができました。

これまで、学科を超えて惜しみない愛でご指導くださった先生方、職員の方々、そして苦楽を共にし、高め合った全ての友人に感謝申し上げます。

卒業後はイギリスの大学院にて英語音声学の研究を続けます。
本学で培った柔軟な思考力を基盤にさらに知見を広げ、国際化に伴う英語教育に貢献できるよう、精進して参ります。

哲学科
楠野　千新 さん

大学での学びが、論理的思考力とさまざまな考えを理解し受け止める受容力を培った

この度は栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。

これまで支えてくださった皆様に、心より感謝申し上げます。

聖心女子大学では、所属する哲学科での学びだけでなく、副専攻の教育学、単位互換制度を用いた東京音楽大学、上智大学での学び、大学の広報活動など、自由な学びの機会を与えていただきました。

また、所属したグリークラブでは、新型コロナウイルス感染症の流行により従来の活動が制限された時にも、コーチや教職員の皆様、活動を通して出会った大学内外の仲間たちに支えられ、多くの挑戦をさせていただきました。

これらの経験は、論理的思考力とさまざまな考えを理解し受け止める受容力として、今の私を支えています。聖心で過ごしたかけがえのない日々を胸に、今後も考え、学び続けて参ります。

人間関係学科
久保　綾美 さん

卒業後も、他者を思いやる気持ちをもって、多くの人の役に立つことができるよう

この度は栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。
これまで支えてくださった皆様に感謝申し上げます。

この4年間、学業に励むと共に、課外活動などを通して様々なことに挑戦させていただきましたが、特に、復興支援活動に力を入れておりました。コロナ禍で活動が制限され、大学の復興支援活動も途絶えそうになる中、新しいプロジェクトを立ち上げましたが、その際、教職員の方々をはじめ、友人や後輩に非常に助けられました。傍で支えて下さる方々の存在なしでは、挑戦することは出来ていなかったと思います。

卒業後も、他者を想いやる気持ちを大切に、1人でも多くの人の役に立つ事ができるよう、努力して参ります。

被災地に届けられた手作りマスク

※Ecoマスクプロジェクト：手作りマスクの制作・頒布により集めた寄付金を南相馬へ送る活動

75th ANNIVERSARY

聖心女子大学
創立75周年記念事業

Sacred Heart 75th
Rooted in the Past,
Stepping into the Future

創立75周年記念行事

11.4 sat.

創立75周年記念ミサ（聖堂）

13:00-

司式：菊地功カトリック東京大司教
※ミサには本学卒業生の皆様はご参列いただけます。聖堂入口にてご記帳をお願いいたします。

記念式典（宮代ホール）

創立75周年記念講演・シンポジウム

基調講演：平田仁子氏
（本学43回卒業生）

《プロフィール》
一般社団法人Climate Integrate代表理事/千葉商科大学大学院客員准教授/本学非常勤講師／2021年ゴールドマン環境賞受賞/
2022年BBC100Women 選出

その後、講演者の平田仁子氏に加え、辰野まどか氏（本学52回卒業生 グローバル教育推進プロジェクト（GIFT）代表理事）、増田京美氏（本学68回卒業生 JICA エジプト事務所勤務）、また本学学生有志も交えて、シンポジウム（司会：本学教育学科教授 永田佳之）を行う予定です。

※記念式典・記念シンポジウムは、本学ならびに姉妹校関係者にて挙行予定です。

大学アーカイブズプロジェクト

アーカイブズ事業には、未来を支える力があります。卒業生の皆様の記憶と思い出の品々が大学の財産となり、100周年へ向けた未来への礎となるよう活動してまいります。関係者の皆様、大学史資料の寄贈へのご協力をお願い申しあげます。

大学アーカイブズプロジェクトに関する問合せ・史資料送付先
聖心女子大学 管理部総務課 アーカイブズ担当
E-mail：soumu-shisetsu@u-sacred-heart.ac.jp　TEL：03-3407-5811

≪おみどう≫プロジェクト

本学の聖堂《おみどう》は、献堂依頼60年以上、本学の学生、教職員、卒業生などの精神的な中心となってきたものです。このたび、大学創立 75 周年に当たり、あらためて《おみどう》の精神的価値を確認し、本学の教育と学生生活の中にさらにいっそう根づかせるために3つのプロジェクトを実施することになりました。

- Project 1　聖堂ガイドブックの刊行
- Project 2　聖堂の施設設備の整備
- Project 3　宗教音楽の特別講座

宮代グリーンプロジェクト

● 桜並木の再生

創立当初、久邇宮邸から引き継いだ若木の桜は75周年を迎えた今、樹勢低下や倒木などが懸念されるようになりました。そのため、樹木医による「樹木の健康診断」を行い、個々の桜の健康状態を確認するとともに、再生計画を作成いたしました。
桜並木の風景を100周年に向けて今後も受け継いでいくために、みなさまからのご寄付を活用させていただきたく存じます。ご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

再生計画

		1年	2年	3年	4年	5年
樹木診断 →	再生計画作成	剪定				
		樹木回復工事				
		苗木育成			植栽	

● 学生の憩いの場・活動の場の設置

都会にいながら自然を感じることのできる落ち着いた空間と、明るく開放感のある食事スペースを学生や利用者に提供するため、学生食堂のテラス席をリニューアルします。

● 北門からの坂道の植栽整備

2016年に設置された4号館とメインキャンパスをつなぐ坂道。緑豊かな本学らしく、花の香や季節の移ろいを感じる道に変わります。

私たちが作りました

聖心女子大学 グリーン&SDGsマップ作成

本学ならではの歴史、行事やエコ活動の紹介も盛り込まれたマップを学生が作成しました。作成に携わった学生に話をききました。

(学生会役員会：細野葵衣 4年 桑山恵 4年　内田志保子 3年)

マップを作成する過程で、フードロスの削減や、SDGsの問題について学内でさまざまな取り組みが行われていることは知っていましたが、今回の取り組みを経て、改めて学内全体で、SDGs関連の取り組みを行っていることに気づかされました。

キャンパス内の植物や、植樹の由来などを知ることで、75周年という数字だけではなく、樹木の歴史を通じて、今の自分に繋がっているということを実感しました。

この75周年という歴史は、女性の学びたいという思いが、75年間受け継がれて今に繋がっているものであることを感じました。今回、改めてキャンパスを見つめ直して、将来も多くの学生にこのキャンパスで学び続けてほしいな、と思いました。

聖心女子大学 学内の植物

グリーン&SDGsマップ

1960年に今上天皇ご生誕記念として宮内庁より送られたメタセコイアをバックに

ご支援のお願い　創立75周年記念 聖心女子大学振興基金 USH基金

2023年度に創立75周年を迎えるにあたり、創立75周年記念事業を推進するため新たに「宮代グリーンプロジェクト」、「大学アーカイブズプロジェクト」を寄付事業目的として、これまでもご支援をいただいてまいりました聖心女子大学振興基金（USH基金）の中で、75周年記念事業推進のための募金活動を行っております。皆さま方の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

募集金額　個人：一口1万円　団体・法人：一口３万円

募集期間　2024（令和6）年3月末（創立75周年事業年度末）迄を目標としますが、100周年に向けて継続してまいります。

聖心女子大学振興基金のお申込みは、①郵送　②WEBよりご選択いただけます。
クレジットカード・コンビニでの払込みをご希望の場合、「WEBでのお申込み」をご選択ください。

ご郵送でのお申込み

下記URLより「寄付申込書」をダウンロードの上、聖心女子大学管理部財務課宛にご郵送をお願いいたします。

https://www.u-sacred-heart.ac.jp/contribution

メールでのお申込み

メールにて聖心女子大学管理部財務課
e-zaimu@u-sacred-heart.ac.jp にご連絡をお願いいたします。

WEBでのお申込み

下記URLより、お手続きをお願いいたします。

https://www.u-sacred-heart.ac.jp/contribution
※ 右QRコードから直接お申込みいただけます。

ご寄付いただいた皆様には、
聖心女子大学ポストカードを進呈いたします。

図柄はお選びいただけません

リーダーシップとコミュニケーション

国際交流学科
奥切 恵 教授
OKUGIRI Megumi

専門
言語と文化、コミュニケーションストラテジー、リンガフランカ、言語習得、談話分析

コミュニケーションとは

私の主な研究は、人が英語や日本語という言語を、生活上のコミュニケーションツールとしてどのような意図で使っているのか、そしてどのような効果があるのかといったことを考察することです。

思い返してみると小さい頃からコミュニケーションには興味があり、心の中に思い浮かべているある情景や目の前に見ている景色をそっくりそのまま人に伝えるには、どのようなことばや表現を選んだら良いか真剣に悩んだりしているような子どもでした（笑）。

大人になっても、実際に伝えたいことを意図したままに伝える、ということは意外に難しいことに気づきます。

例えば日本に来たばかりの新入社員マリィさんに愛美さんが「うちの部長は良いリーダーだよ」言ったとしましょう。そうするとキャシーさんはその部長に対してどのような印象を思い浮かべるでしょうか。一般的に日本文化で「良いリーダー」とは、「強い人」や「競争的な人」を表すことが多いかもしれませんが、現代のグローバル社会では文化や環境が違うと「聞き上手」だったり「協力的」というイメージを持つ人も多くいます。会話をしている二人が違う文化に育ったとすると、その部長に対してのイメージが二人の間で異なる可能性が高い、ということになります。そのうえ相手の価値観や考え方を知らないままだと、話し相手が違うイメージを思い描いていることに気づくことすらできません。ではどうやって違いに気づくのでしょうか？相手の価値観を知るためには、先ずは自分の価値観や考え方を知ることです。自分がどう考えているか確認しないと、相手とのギャップに気づくことができません。コミュニケーションというのは単なることばの表面だけではなく、自分を知り、お互いを知ることから始まるのです。同じか、異なるか、または少し似ているかによって、コミュニケーションの方法は違ってくるのです。

特に外国語でコミュニケーションを図ろうとする時には、異なる文化で育った人同士がコミュニケーションをとる場合が多いので、文法が正しい表現を使ったとしても正確に伝わらないというハプニングが多々あるのは、このギャップに気づかないからです。言語を習得する上では単に文法を学ぶことだけではなく、まず自分がどのようなイメージを持ってどのような価値観を伝えたいのかを明確にすること、そしてどのように伝えたら相手に伝わるのかを考えることが肝になります。私の担当する授業でも、英語で伝えることばが相手の文化でどのように理解されるかを明確にしてから言語化するよう指導しています。

コミュニケーションの要は、自分と他者の価値観や考え方の違いのギャップを知ることなのです。

コミュニケーションは自己開示から —自分のキーワード—

日本の人が英語を話すときにはたから見ていてちょっともったいないなと思うのは、日本文化で良しとされる謙虚さを使いすぎることです。例えばグループで「英語で

自己紹介してください」と言われた時、最初に自己紹介する人が “My name is .... I am studying International Studies”とだけ言うと、次の人も、そしてその次の人も同じパターンで自己紹介をして、それ以上の情報（個性）は出さないという様子が多くみられます。なるべく他の人と同じ方法で個性を出さないようにして伝える、ということは悪いことではないのですが、自分の好きな物や興味のあることについて少しでも自己開示して話すことができれば、その人の考え方や生活が少し垣間見えて、相手も親近感を持つことができ、お互いに自分の情報を安心して伝え合うことができます。

日本社会（文化）では未だ自己開示する機会が少ないからかもしれませんが、グローバルコミュニケーターとして活躍するには自己開示が鍵となります。私の授業ではアイスブレイクとして一人一人に数分ずつ、最近あった嬉しかったことや興味が湧いたことなどを話して、自己開示してもらうことから始めます。最初はみんな緊張していますが、毎週この訓練をやっていると自分の考えを意識的に探し自然に自己開示できるようになります。そうすることで自分のことばで話すことに自信がつき、自分の引き出しも増えていくし、外国語でも表現できるようになるのです。「外国語でいきなり話してください」と言われてもなかなか話せない」という人は、外国語ができないのではなく、自分の何を話したら良いかわからないというケースがほとんどです。

コミュニケーションで大切なのは、自己開示なのです。自分から開示しなければ相手も開示してくれないのはどこの文化でも同じことです。文化によって違うことも多いですが、これについてはどこの文化でもおおよそ同じですね。楽しい時や嬉しい時にどの文化の人も笑顔になるのと同様です。「内向的で話すことが苦手」という人にとっては自己開示はハードルが高いかもしれませんが、まずは好きなものについて話すことをお勧めします。興味のあることだと思った以上に多弁になれることも多いのです。「自分にはできない」と決めつけないでください。世界中の誰でも最初の自己開示は緊張します（緊張しない人はいません）。まずは自分を知り、自分の引き出しの中から一言でも良いので、自分の考えや価値観に関するキーワード探しましょう。外国語ではそのキーワードを話すことから新しいコミュニケーションやつながりが生まれます。

グローバルリーダーシップとは

私が担当している特別プログラム「グローバルリーダーシップ・プログラム」の授業でも、コミュニケーション教育を重視しています。世界が直面している問題に対応できるリーダーにとって最も必要なのは、人とのコミュニケーションやつながりなのです。出会ったばかりの人や違う文化で育った人とでも、自己開示によって近くなった心の距離が信頼関係となり、良いチームを作ることができます。自分の興味や考えを相手の価値観とのギャップを踏まえて伝え、チームメンバーが困ったときにちょっとしたことでも助け合うこと（例えばペンを貸すだけでもいい）、そこから新しい未来が広がっていくのです。一層重要なのは、助けを求める力です。身近な例ですが、海外など知らない土地で道に迷ったら、ついネット検索で済ませてしまおうと思いがちですが、ちょっとした情報でも助けを乞うことでコミュニケーションが生まれ、予想していなかった楽しい情報までもらえたりします。助けを求める力は、実はリーダーシップにもつながるのです。メンバーから様々な考えを求めることができるリーダーがいるチームこそ、リーダー一人のアイデアでは想像もできなかったような素晴らしいアイデアが生むのです。「三人寄れば文殊の知恵」とはよく言ったものです。「強い人」や「競争的な人」が良いリーダーになるとは限りません。チームに助けを求めることができる「聞き上手」で「協力的」なグローバルコミュニケーターこそ、これから求められるリーダーなのです。

グローバルコミュニケーターとして英語を使うときに、ネイティブのような発音や文法にこだわる必要はありません。大事なことは、「心の中を理解しあえるかどうか」ということなのです。私が研究しているリンガフランカとしての英語は、英語を母国語としていない人たちが使う英語のことを言いますが、世界を見渡してみると英語圏の国も思った以上に多国籍なことに気づくでしょう。俗にネイティブと呼ばれている人たちはほんの少数派で、リンガフランカの英語を使っている人口が圧倒的に多いのが事実です。だから日本の大学生が英語を話すというリンガフランカの英語は、実際には世界で多数派なのです。

言語を学ぶということは、ことばだけではなく、そこに生きる人たちのものの考え方や価値観、生き方、生活習慣、制度、流行っているもの、苦手なものなど、なんでもを知ることがコミュニケーションの成功につながります。人に興味を持ち人を知る、ということがまさにコミュニケーションなのです。もちろん全てを知っている人などこの世にいません。私もいまだにたくさん失敗します。ただ失敗しても学びとし、正直に気持ちを伝えれば分かり合えるのです。学生のみなさんにはこれからも知るために学び続け、臆せず世界で活躍してほしいと願っています。

グローバルリーダーシップ・プログラムの授業にて

招聘研究員就任式

グローバル共生研究所の招聘研究員に「さかなクン」が就任

さかなクン コメント

「とっても貴重なギョ機会をいただきまして心よりありがとうギョ(魚)ざいます」「はりきってレッツギョー！！」

さかなクン（国立大学法人東京海洋大学名誉博士・客員教授）が本学グローバル共生研究所の2023年度招聘研究員に就任しました。4月11日(火)に同研究所で開催された就任式では所長の植田誠治教授からさかなクンへ委嘱状が手渡されました。
さかなクンは今後、グローバル共生研究所の展示スペース「BE＊hive」での展示企画やイベントなどで活動する予定。植田所長は「さかなクンのもつ豊かな知識と経験、そして我々を惹きつけてやまないキャラクターと行動力。さかなクンに学び、さかなクンと協力して、魚・海・環境の問題をはじめ、さまざまな地球的規模課題の解決に向けて、さらに取り組んでまいりたい」と話しています。

国際協力

スリランカのペラデニヤ大学と国際協力の協定を締結

本学は、ペラデニヤ大学（スリランカ民主社会主義共和国）と国際協力に関する協定を締結。これはJICA草の根技術協力事業（支援型）として採択された「公立学校を拠点としたゴミ問題解決のためのグリーンユース・コミュニティ形成事業」の一環で、同事業は2023年から開始され、2年間行われる予定です。

また、この事業に合わせて、国際協力の専門家や国際理解教育の実践者を目指す学部生を対象にスタディツアーも本年３月に実施。今後は、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の協力のもとに現地のニーズに即した環境教育教材を作成していく予定です。

スタディーツアー

国際交流学科（グローバル社会コース）後期科目“Project Planning for International Cooperation”の一環でタイを訪問

国際交流学科（グローバル社会コース）の後期科目 “Project Planning for InternationalCooperation”（担当教員：岡橋純子教授）の一環で、授業を通じて事前勉強、企画、準備をおこなった研修が、タイで実施されました。フィールドワークに加え、国連機関、日本大使館との交流など、学生にとって貴重な経験となりました。

遺跡の解釈には地質学的な知識や風土の理解も要することを学ぶ

研修中のハイライト、シラパコーン大学との交流

スコータイ遺跡群を自転車で廻る

産学連携

ムーミンバレーパークとの産学連携

これまで、本授業では埼玉県飯能市のムーミンバレーパークと連携し、企画展の英語展示協力、パークをテーマとした英語教材の開発など、様々な企業協力に取り組んできました。連携3年目となる今年は、連携の場をパーク隣接地に広がるメッツァビレッジに移し、小学生を対象としたビレッジとその周囲の「ネイチャー・マップ」の翻訳への協力を行う予定です。

「ネイチャー・マップ」の翻訳協力

「ムーミンの食卓とコンヴィヴィアル展」英語展示協力

英語学習キット「MOOMINGLISH」の開発

留 学

ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学ならびにハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジとそれぞれ協定を締結 -- 10カ国・地域20校へ長期留学が可能に

交換留学協定校(新規)
ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学

推薦留学協定校(新規)
ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ

推薦留学から交換留学に変更
マンハッタンビル大学

上記3校はいずれも英語による長期留学での派遣。これによって、聖心女子大学の長期留学協定校は10か国・地域20校に増加し、英語圏留学を希望する学生はより多くの選択肢が持てるようになります。

社会貢献

第7回サムライフェス ボランティアツアー

2023年5月5日、南相馬市で行われた「第 7 回サムライフェス」に、6名の学生がボランティアとして参加しました。3 日には市内視察を、4 日にはサムライフェスの準備と、福島の今を自分の目で見て考える 3 日間となりました。学生たちは貴重な体験を周囲に伝えるとともに、さらなる思いを込めたアクションを模索しています。

4号館／聖心グローバルプラザのご案内

展示スペース「BE＊hive（ビーハイブ）」

BE＊hiveは、地球規模の課題に向き合い知性を磨く、あるいは課題解決に向けた活動に積極的に参加することを願って創設された展示・ワークショップスペースです。2年ごとにテーマを設定し、これまで「難民・避難民」「気候変動」「女性」をテーマに展示してきました。2023年5月からは「子どもと不条理」展を開催しています。

企画展「子どもと不条理：それでも世界は生きるに値する」

WEB展示公開中

第I期「子どもと戦争」
2023年5月15日(月)～10月23日(月)

現代ほど「子ども」にとって不条理がはびこる時代はないのかもしれません。途上国や先進国を問わずに地球規模で問題が起き、立場の弱い子どもたちが窮状に追い込まれています。
本展では作家の作品を通して、戦争という不条理下で子どもたちは何を感じ、考え、表現したのかについて吟味し、改めて戦争の本質について問いかけます。（入場無料）

「緒方貞子さんと聖心の教育」

会期延長
2023年10月23日(月)まで

本学第1期生の緒方貞子さんの人道支援への強い信念は、初代学長マザーブリットが実践した人間尊重の精神に通じるものがあります。当時の貴重な写真に加えて、マザーブリットの日誌や手紙、緒方さんのテニスラケットなど、実物の展示品のほか、緒方さんの思いを受け継いで、平和構築のためにルワンダで尽力する人たちが経験を語る動画を公開しています。

「緒方貞子さんと聖心の教育」
WEB展示

グローバル共生セミナーのご案内

卒業生やご家族、ご友人など、どなたでもご参加いただけます

聖心女子大学グローバル共生研究所では、地域に開かれた場所を目指し、どなたでもご参加いただけるグローバル共生セミナーを開講しています。新しい世界とつながり、学ぶ。その第一歩としてお気軽にご参加ください。

詳しいご案内、お申込みは、下記グローバル共生研究所ウェブサイトからご確認ください。

ボランティア活動 サポート情報

ソーシャルアクション・サポート制度
～ あなたのボランティア、サポートします ～

グローバル共生研究所では、聖心女子大学の課外活動団体や学生個人のボランティア活動をサポートしています。

これまでの実績（例）

- フェアトレードマーケット開催
- 学生団体「Earth in Mind」
  ペーパーレスの活動、防災食配布活動等
- 赤十字講演会・オンライン勉強会開催 等
- 福祉施設利用者のキャンパスツアー開催
- 学生団体「SHRET」衣料品回収活動